春まき適応性の高い「ジャンヌ」新発表！耐病性で肥大性のよい「レンヌ」

早生の丸玉キャベツ

安定した品質で周年栽培が望まれる丸玉キャベツ。このたび、耐病性と収量性に優れ、作りやすい新品種2品種を発表することとなりました。その特性と栽培要点、従来品種との使い分けを紹介いたします。「ジャンヌ」「レンヌ」をうまく組み合わせて、より広い作型での安定生産が可能になります。

タキイ研究農場　中川　清和

作りやすい品種が要望されるグリーンボール

グリーンボールは、元々長野県野辺山で最初に栽培出荷された、玉の形状が丸型で熟期の早いキャベツの商品名でした。

そのころ、キャベツといえば普通系キャベツを指し、へん円で、球重が1・3～1・5kgもあり、葉質がかたいものばかりでした。しかしグリーンボールは球形が丸型で、球重が1kg前後とコンパクトで手ごろな大きさであったこと、葉質がやわらかく、甘みがあり生食に適した品質であったことから、新しいタイプのキャベツとして消費者に認められ、市場でも人気を博しました。

その後、栽培は急速に広まり、現在ではほぼ周年にわたって出荷がなされ、消費面では、浅漬け用としての用途が広がり、市場でも重要品目となりました。

しかし、丸玉タイプ品種は、普通系キャベツと比較して、耐湿性と耐病性が弱いため、わが国の高温多湿条件下では作りにくいうえ、圃場貯蔵性も劣ることが生産面での難点でした。

また、作型が分化し、安定した品質で周年栽培が望まれる現状において、春どり栽培では、晩抽性で玉の形状が安定し、早出し出荷がねらえる品種、そして適期栽培の夏秋どり栽培では、耐病性と収量性にすぐれ、作りやすい品種の育成が要望されてきました。

タキイ研究農場では、こうした状況を考慮して、これらの欠点を克服する品種の育成を進め、晩抽性で特に春まき栽培に適した「ジャンヌ」、耐病性で玉の肥大のよい「レンヌ」を発表することになりました。

過去主産地での試作では、いずれも栽培が容易で、品質、球色にすぐれ、玉の形状とそろいのよい品種として、高い評価を得ることができました。



↑丸玉キャベツは球重が1kg前後とコンパクトで、葉質がやわらかく、甘みがあり生食に適した品質で消費者から人気となり、栽培が急速に広まった。写真は「ジャンヌ」。

「ジャンヌ」の品種特性



球芯が短く、球内色が新鮮味あふれる鮮黄色で食味のよい「ジャンヌ」。
↓

春まき適応性にすぐれた早生種

晩抽性にすぐれ、春まき栽培においても芯が伸びにくい上、尖り玉になりにくく、適期まき栽培では、定植後50～55日で、1kgに太る早生種です。

玉は濃緑色、形状安定性高い

草姿はやや開性、外葉は丸型、株張りは中程度で生育はよくそろいます。玉は濃緑の豊円球で、春まき栽培での形状の安定性は非常にすぐれています。

品質良好

球内色は新鮮味があふれる鮮黄色で、葉質はやわらかく、多汁で食味は良好です。

収穫期幅が広い

早生種の丸玉キャベツとしては、結球後の裂球が遅く、玉の形状の乱れも少ないので、収穫適期幅は広いのが特長です。

栽培の要点

健苗育成と若苗定植　一般のキャベツと比較すれば、初期の根量はやや少ないので、地上部と地下部のバランスのとれたガッチリした苗を育苗することが重要です。

また、常に若苗定植を心掛け、新根の発生と活着を促進し、初期生育を順調に進めます。トレイ育苗の場合は、本葉3～4枚程度が定植適期です。

栽植密度　畝幅60～65cm、株間27～30cm、10a当たり5000～6000本程度を標準とし、密植栽培で収量を上げます。

肥培管理　本種は熟期の早い極早生種なので、初期生育を旺盛にして、結球開始期までに十分な株張りを確保することが大切です。

施肥量は、土質や肥よく度、栽植密度によって異なりますが、目安としては、10a当たりの成分量でチッソ30kg、リン酸25kg、カリ30kg程度とします。このうち元肥に3分の2を施し、残りを追肥として施しますが、玉肥大を促進するためには追肥



味がよく、春まき適応性にすぐれた「ジャンヌ」。

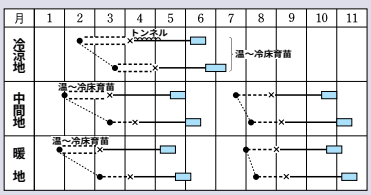
「ジャンヌ」の適作型

一般地の春どり栽培、冷涼地の初夏どり栽培が特に適します。

●冷涼地初夏どり
2月中旬～4月まき→
6月上旬～7月下旬どり

●一般平暖地春どり
1月下旬～3月下旬まき→
5月中旬～6月どり

●一般平暖地年内どり
7月下旬～8月上旬まき→
10月中旬～11月どり



「レンヌ」の品種特性



↑球色はツヤのある鮮緑色で新鮮感にすぐれ、葉質はやわらかくておいしい丸玉キャベツ「レンヌ」。

耐病性にすぐれ、栽培容易な早生種

萎黄病に抵抗性を持ち、黒腐病にも高い圃場耐病性を示します。適期まき栽培では、定植後55～60日で、1・2kg程度に太る早生種です。

大玉で多収

草勢が強く、外葉の伸びと株張りが良好で、玉肥大にすぐれます。結球性は肥大型と充実型の中間で、豊円な丸型に仕上がり、形状は安定して玉ぞろいが良好です。

良質な新鮮球で、裂球が遅い

球色はツヤのある鮮緑色で、新鮮感が強く、葉質がやわらかく甘みもあるので、品質は上々です。しかも結球後の裂球が遅いので、収穫期の幅が広いのが特長です。

栽培の要点

肥培管理　総施肥量は、前述した早生種「ジャンヌ」に準じます。ただし、「レンヌ」は早生種ですが、球肥力が強く、旺盛な初期生育をするので、元肥のチッソ成分をやや少なめにし、追肥で玉の充実を促進させます。

播種期の厳守　気温の低い春の早まき栽培では、やや球頭が尖り、形状も早めに施して、初期の肥効を高めることが大切です。

適期収穫　裂球は遅く、収穫期の幅の比較的広い品種ですが、球内色が鮮黄色で食味がよい玉を収穫するためには、8～9分結球の若々しい玉を収穫することが大切です。

圃場選択　本種は萎黄病に対して抵抗性がないので、激発圃場では栽培を避けます。

春まき栽培の注意点　春まき栽培では、トンネルを利用した栽培が多くなります。トンネル内部は高温多湿となり、特に生育初期にはべと病などの病害や、生育障害が出ます。最高気温は25℃程度で管理し、換気を行い、順調に生育させることが必要です。

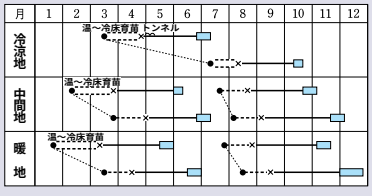
「レンヌ」の適作型

冷涼地の夏秋どりから一般平暖地の年内どりを中心とした幅広い作型に利用できます。

●冷涼地の夏秋どり
3月中旬～7月中旬まき→
6月下旬～10月どり

●一般平暖地の年内どり
7月下旬～8月中旬まき→
10月中旬～12月中旬どり

●一般平暖地の初夏どり
2月中旬～3月下旬まき→
5月下旬～6月どり





玉肥大にすぐれ、耐病で作りやすい「レンヌ」。

が乱れる懸念があるので、極端な早まきは避けます。

栽植密度　畝幅60～65㎝、株間27～30㎝、10a当たり5000～6000本程度を標準とし、密植栽培で収量を上げます。

適期収穫　裂球は遅く、収穫期の幅が比較的広い品種ですが、球内色が鮮黄色で食味がよい玉を収穫するためには、8～9分結球の若々しい玉を収穫することが大切です。

病害防除

特に夏秋どりで問題になる根こぶ病には、現在のところ決め手となる抵抗性品種がありませんので、耕種的防除により被害の軽減を図ります。

まず水はけのよい圃場を選択し、石灰チッソによる土壌消毒、pH矯正（pH6・5～7）を行うのが一般的です。その後、排水を図るため高畝にし、定植前にフロンサイド等の土壌殺菌剤の処理も併用します。しかし、これ以外にも、菌密度の上昇を抑えるために輪作体系を組むことも、持続的生産という観点からは非常に重要です。

黒腐病については、生育期間が梅雨時期や台風シーズンに当たることもあり、雨風による根傷みなどで株の活力が低下した場合に、発生しやすくなります。雨風の直後や、結球初期に銅剤散布を行い、細菌病の予防に努めます。

害虫防除

コナガのほか、アブラムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）などによる被害には注意が必要です。

早期発見、早期防除　終齢幼虫になると効果のある農薬が限られてしまうヨトウムシやハスモンヨトウでも、1～2齢幼虫ならほとんどの殺虫剤でも効果があります。畑をよく観察し、発生初期を見逃さないように防除します。

薬剤のローテーション　同じ薬剤を連用すると、害虫の薬剤抵抗性を発現させるので、異なった種類の薬剤をローテーション散布することは非常に重要です。特にコナガは薬剤抵抗性を獲得するのが早いとされています。一度薬剤抵抗性がつくと、防除が困難となるので、薬剤のローテーションにより、抵抗性がつきにくい防除体系の確立が大切です。

性フェロモン剤の利用　コナガ、ハスモンヨトウに対する性フェロモン剤の使用で効果を上げている事例もあります。これらは、やや値段が高いものの、地域的に取り組めば、農薬の散布回数の減少につながり、低農薬栽培の一環として、取り組む価値の高い方法です。

新品種「ジャンヌ」「レンヌ」と「マルシエ」との使い分け

「ジャンヌ」は、特に春の早出しをねらう作型で威力を発揮します。丸玉キャベツ品種の中でも、晩抽性に関しては抜群にすぐれていますので、春の早まき栽培でも、芯伸びが遅く、玉の形状が安定しています。

「レンヌ」は、耐病性（萎黄病抵抗性、黒腐病圃場耐病性）にすぐれる大玉多収種として、「ジャンヌ」に続いて収穫できる早生種です。

「ジャンヌ」と「レンヌ」は同じ早生種ですが、「ジャンヌ」は「レンヌ」より熟期が約5日前後早いので、2品種をうまく組み合わせて出荷すれば、より幅の広い作型での安定生産が可能になると思われます。

また従来品種の「マルシエ」はこの3品種の中でも、球色が濃緑でテリツヤがあり、葉質が特にやわらかで、品質、食味ともにすぐれるので、生食用に適します。

「マルシエ」「ジャンヌ」「レンヌ」の特性比較表

品種名	熟期	株張り	草姿	球 重量	球 形	球 色	球 緊度	球 尻づまり	品質	耐暑性	萎黄病	裂球早晩	備考
マルシエ	極早生（50）	中小	中立	1.2	球	濃緑	4	◎	極上	○	◎	中晩	
ジャンヌ	早生（55）	中小	中開	1.2	球	濃緑	5	◎	極上	○		中晩	早どりねらい
レンヌ	早生（58）	中	中立	1.4	球	緑	4	◎	極上	△	◎	中晩	大玉ねらい

タキイ交配　キャベツ　**ジャンヌ**
申込番号　06-006-01
1袋（約200粒）525円
20㎖　5,360円

タキイ交配　キャベツ　**レンヌ**
申込番号　06-006-02
1袋（約250粒）525円
20㎖　5,360円